

大阪青山大学と箕面ヒューマンプラザとの連携公開講座

実施日:平成 30 年 1 月 27 日(土)

講座:午前『親子で元気っず体操』

10:30～12:00

午後『「写メ俳句」への第一歩』

13:30～15:00

本学と箕面ヒューマンプラザとの共催という形で、公開講座 2 講座を午前と午後に分けて実施しました。

当日は、前夜からの雪が降り止まず、箕面市内も数センチの積雪が見られ、各所で交通マヒが報告されるような、あいにくの空模様でした。講座の開催ができるのか懸念していましたが、無事予定通りに開催することができました。

【親子元気っず体操】

講師:村田トオル准教授(大阪青山大学子ども教育学科)

小さいお子様をお持ちの親御さんは、できるだけお子様と触れ合う時間を増やそうと、あれこれ苦心されていることと思います。本講座は、親子で楽しめる簡単な運動を紹介し、ご家庭で実践してもらって、親子のコミュニケーションを一層深めてもらうとともに、健康な身体づくりにもつなげてもらおうと、企画したものです。

あいにくのお天気にもかかわらず、14 組 30 余名の元気な親子の皆様が集まってきました。今回は、お母さんが申し込まれて、お父さんが参加される、というケースが多かったようで、参加者の半数以上がお父さんでした。

まずはボールを使った運動です。親御さんが投げたボールを、お子さんが両手でキャッチします。「お子さんにはまだ、直線的に飛んでくるボールを、両手で挟むようにキャッチする、というような運動能力はありません。ですから、山なりのボールを、お子さんの伸ばした両腕に乗せるように、フワッと投げてあげてください」という先生からのアドバイス。そうすると、お子さん達は見事にキャッチできて、みんな大喜びです。

次は、身体から少し離れたところにおいたボールを、笛を合図に親子で取り合うゲーム。大人気なく勝に行くお父さが、散見されました。

続いては、親御さんを土台にして、お子さんがまたの下をくぐったり、背中に上ったりするゲームです。

その次は、約 4m離れたところに置いたコーンの周りを回って帰ってきたり、そのコーンの上に置いたボールを持って帰ってきたりする「かけっこ」です。3 チームに分けてリレー形式で楽しみました。子どもグループの後は、お父さんお母さんチームも挑戦しました。リレー

の時は子どもたちから、「ガンバレー！」のかわいい声援が飛び、お父さんお母さんも、思わず熱が入りました。

こうように色々な運動を楽しんでいただいた後、最後に先生から『「親子元気っず体操」の 3 つの効用』、ということについてお話しが有りました。

- ①親子のきずなを深め、親は子供の成長を身を持って実感できる。
- ②子どもの運動能力が向上する。(特にバランス力)
- ③親の運動不足の解消

この日の寒さも逃げ出すくらい元気よく、色々な運動を楽しんでいただきました。「楽しかった」「またやりたい」という、嬉しいおことばも頂戴しました。ご参加いただいた皆様、本当にありがとうございました。

【写メ俳句】

講師:三木 慰子 教授(大阪青山大学短期大学部)

「写メ俳句」とは、スマホや携帯で撮った写真を見ながら、感じたままを17文字で表現して楽しむ俳句。季語を意識する必要もありません。

本講座では、15名の皆さんが受講されました。中には、俳句の会の方もいらっしゃったようですが、写メ俳句は初めての方ばかり。最初は、「何をさせられるのか」とか「作品の提出を求められるのではないかなど、少し不安に思っておられたかもしれません。

しかし、いざ講座が始まりますと実に積極的に受講いただき、先生からの「春の花といえど何ですか」という予想外の質問や、「枯れ枝にとまるカラスの絵を描いてください」という無茶な要求にも、全力で取り組んでいただきました。

また、本学学生の作品と先生の寸評を紹介した時には、「へえー」「おもしろい」など、思わず笑ったり声が上がったりして、大人では及びもつかないような若者の独特の感性を、楽しんでおられました。

最後は、先生が用意した1枚の写真を見ながら、受講者の皆様に写メ俳句を作っていただきました。この写真というのが、阪急箕面駅ホームの朝の風景。車輦とホームを歩く人と、駅の看板と時計が写っているだけの、何気ない日常のワンシーンを切り取っただけの、本当に何の変哲もない1枚の写真でした。

この難題に、10分弱で取り組むのは至難の業とと思っていたのですが、匿名で白板に作品を書き出して発表会をしたところ、先生も驚くような秀作が、ずらりと並びました。お見事です。

受講者の皆様には、初めての写メ俳句を、90分という短い時間でしたが、楽しんでいただけたのではないかと思います。

「第2弾はいつやるんですか」というような、ありがたいおことばも頂戴しました。ご参加いただいた皆様、本当にありがとうございました。

皆様のご協力のおかげをもちました、2講座とも好評のうちに実施することができました。今後も、このような機会が持てますよう、努めていきたいと思えます。その節は、どうぞよろしくお願ひいたします。